

「若者に聞く」

「安倍9条改憲」と「これからの社会」

編集部

若者の政治意識の一端を知るために、青年の要求実現のために活動している4名に聞きました。一つは、今問題になっていいる安倍9条改憲をどう思うか。もう一つは、これからの社会についてです。

編集部

Q1 「安倍9条改憲をどう思うか？」

Tさん（女性）

そもそも今まで9条があり、一人の戦死者も出さず外国人を戦争で殺してこなかったという平和憲法を今変えなければならぬのか？平和な日本を続けてこられたのは9条があったからだと思うし、平和な日本が続いているのであれば、変える必要がないと思う。

もしこれが憲法改正になって9条に自衛隊が書き込まれれば、9条の中で矛盾が生じると思う。9条には「国として武器を持って相手を脅かしたり、直接殴ったり、殺したりしない。外国とトラブルがあっても、暴力で解決することはもう永久にしない。戦争放棄だ」と2項には「1項で決めた戦争放棄という目的のために軍隊や戦力を持たないし、交戦権も認めない」（「日本国憲法を口語訳してみたら」（引用 幻冬舎／塚田薫）と書いてあります。そこに自衛隊を書き込めば、今や海外で物資の補給などを行っている行動（兵站）で自衛隊は米軍と共に行動し殺し殺される危険が高まっている。そんなことになるぐらいなら、今の憲法のままでいいのではないかと思う。

Kさん（男性）

9条改憲をすることが、なぜ必要なのか考える必要がある。施行されてから約70年、誰も殺し殺されなかつた平和な日本を築くことができたのは憲法9条があるからであると思ふ。今国会で取り上げられていることは、自衛隊が違憲であるとの主張に対して、自衛隊を憲法に明文化すること。仮に9条3項に自衛隊を書き加えることになつたらどうなるのか。法律は後の法が優先されるとなつているので、それこそ前文との矛盾が生じ、違憲ということになるのではないか。こういう観点からもわたしは、憲法9条を改憲することに対して反対だし、この平和憲法を守り続けてほしいと思ふ。そして多くの方にこのことを知ってもらいたい。

Sさん（女性）

9条改憲は絶対にしてはならないと思ふ。9条は戦争をもう永久にはならないと戦争体験者である先輩たちが決めたもので、戦争を実際に経験していない自分たちが簡単に変えるのはおかしいと思ふ。私の祖母も実際に東京大空襲を経験していて、小学生の時の

戦争についての聞き取りの宿題を祖母にした時に、涙目になりながら話してくれたことは今でも忘れられない。周りの青年に話を聞くと、改憲に否定的な意見が多く聞かれる中で「憲法9条ってなに？」という声も少なくない。正直、知らないことに驚くが知らないで済まされる問題ではないので改憲について周知してもらえようような働きかけをしたい。

Sさん（男性）

普段生活で誰にでも失敗する事はある。仕事や学校人間関係での失敗等々々である。悔やんでも過去の失敗を変える事は出来ない。その代り今後失敗しないように反省し、次に活かす事はできる。日本は戦争をするという失敗をした。それは許されざることであったが、その反省を活かし憲法9条を作った。憲法9条は国家間の揉め事の解決手段として戦争する事を放棄すると謳っている。未来社会のあるべき姿を見据えた素晴らしい取決めだと思ふ。

戦後70年余経ち9条改憲の動きが出てきた。確かに北朝鮮のミサイルや国際テロの動きは危険に感じる。ただもつと危険な事は漠然とした不安を後押しに歴史

の反省を無にして戦争を始める事である。他国の後方支援であったとしても戦場に出さえずれば戦争は戦争である。戦争で解決できる事は何もない。実際戦争が起こつた際被害のない人が9条を変えようとし、被害のある人が守ろうとしていると思う。私達国民が憲法を守るように働きかける事が大切である。一人の力は小さくても多数の声が大きき力となる。改憲に反対する3000万署名集めを成功させ国民の要求を確固たるものとし、訴えていきたい。

Q2 「これからどんな社会にしたい？」

Tさん (女性)

安心して暮らせ、子育てができるような社会になってほしい。女性に生まれたのなら、1回は出産を経験してみたい。しかし、今の社会だと、安心して子どもを産めないし、子育てができないと思うとすごく不安になっている。

お金がないという理由で子どもが産めなかつたり、子育てができなかつたりという社会は絶対嫌だし、前述の9条改憲と絡めれば、生まれてくる子どもたちに戦争を経験させたくないし、戦地にも送りたくない。

誰もが平等に生きやすい社会にするために、青年の中から声を上げていきたい。

Kさん (男性)

日本国憲法で謳っている「健康で文化的な最低限度の生活」ができる社会になってほしい。今の日本社会では大企業優遇による利潤第一主義が横行している。また、資本家による労働者の搾取によって内部留保がたまつてきているにもかかわらず、労働者がなかなか恩恵を受けることができていない。その内部留保を使い、賃上げや処遇改善などを行えば、今より格段に暮らしやすい日本社会が待っていると思う。大企業にも応分の税負担を求めていくことが、日本社会の発展に不可欠であると考え。こうした日本社会の現状を知らない青年層は多いので、学ぶ機会を増やしていく活動を今後していきたい。

Sさん (女性)

日本の未来はもっと人々が暮らしやすい世の中になってほしい。自分は今、福祉について学んでいるが、福祉と言っても社会保障の問題や少子高齢社会、虐待、

自殺、労働問題など人々が苦しんでいる問題がたくさんある。特に自殺や労働問題などは日本特有の社会問題であり、KAROSHI(過労死)として世界に伝わるなど決して他国に誇れるものではない。私は日本が好きであるからこそ、もっと日本が幸せな人たちが溢れてほしいし、もっと他国に誇れる日本になってほしいと思う。

Sさん (男性)

9条は日本のブランドであると思う。これを偽ブランドに変えるわけにはいかない。未来社会で日本が戦争できる可能性がある国にするか、世界に誇る平和な国にするかは私達国民の手にかかっていると思う。

(文責・和澄利男・事務局長)



ローカル線12時間の旅

一月中旬の土曜日、翌日の研究会に参加するため、ローカル線で東京に向かうことにした。今回は、雪景色を楽しみたいと思い、飯山線を利用し長野・松本経由で東京に行くことにした。

ところが、心配事が生じた。出発数日前に大雪が降り、県内各JR線には列車の運休や遅れが生じ、信越線では列車が一晩立ち往生したからだ。

出発日、大雪の影響で列車の運行が心配されたが、長岡駅に40分遅れで到着しただけで、豪雪地帯を走る飯山線は定時運行だった。しかも、青空で車窓から雪景色を楽しむことができた。

長岡駅で待ち合わせている間、只見線の雪に覆われた一両編成の列車が到着し、大勢の高校生や通勤客が降りてきた。また、折り返し運転になる飯山線の列車にも、大勢の高校生が乗り降りした。普段利用することのない只見線、飯山線だが、地域の大切な足であることがわかる。

長野・松本間は40年ほど前、何度も急行赤倉で乗車した区間である。歳をとったせいだろうか、当時のことが、もの悲しくほろにがく浮かんでくる。

車窓からの眺めや車中の乗客の様子見しながら、あれこれも思いにふけっていると、時間を忘れ飽きることはない。12時間は至福の時間だった！

(和澄)